

2017年 3月 30日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜多悦子 殿

施設名 聖路加国際病院

代表者 院長 福井 次矢



2016年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 2016年度 ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業
2. 期 間 2016年 4月 1日 ～ 2017年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で2017年3月17日(金)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 2017年 4月 7 日)
 - V 研修修了者報告書

以上

平成 29 年 3 月 31 日

2016 年度ホスピスドクター養成研究事業報告書

■ はじめに

1. 事業の目的・方法

<目的>

一年間の医師研修を行うことによって、緩和ケア病棟における中心的役割を果たすことが出来る医師を態度、知識、技術面から教育し、緩和医療の普及に貢献することを主な目的とする。また、医師養成を行う際に必要なカリキュラム、システム、待遇等について検討する。

<方法>

当院での研修を希望した清水正樹医師を一年間常勤嘱託として採用し、教育、評価を行った。

2. 内容・実施計画

当院での研修体制を参考に作成された、日本ホスピス緩和ケア協会作成の緩和ケア病棟における医師研修指導指針（別紙）に基づき教育、指導を行った

I. 成果

1. 研修修了者の評価と成果

1) 自己評価

① 別紙参照

2) 指導医による評価

本人が元来持っている医師として謙虚な姿勢、態度に加えて、緩和ケアを実践する医師としてふさわしい態度を身につけ、実践できたと思われる。患者を全人的に評価するのみならず、家族とも良好な関係を保ちチーム医療を実践することができた。今後は、後進への指導にも力を発揮することが期待される。

実際の診療面でも十分な知識と技能を身につけたと思われる。今後は、緩和ケアに関する教育、研究にも力を入れるとともに、緩和ケアチーム医師として他科の診療依頼にもこたえるための経験と実践が必要と思われる。次年度前半は、がんセンターの緩和ケアチームでの研修を行い、次年度後半には再び当院で常勤医として勤務する予定である。

2. 研修実施施設としての成果

○面談の機会をもつことの重要性を再認識する事が出来た

清水医師の研修を知識的、情緒的な面からもサポートできるように、金曜日の早朝に定期的に面談の機会を持つようにした。教育プログラムの進捗状況等を確認しながらその折々の悩みに応えるように心がけた。

○後進の指導による効果を確認できた。

当院のジュニア、シニアレジデントと共に診療に当たる機会をもつことにより、後進の指導に当たる機会をもった。知識の整理と、当院レジデントとの交流の機会となった。

○緩和ケアチームのメンバーとしての研修体制を構築した

研修後半の2017年1月～2月にかけて緩和ケアチームメンバーとして研修を行った。診療科のみならず、各病棟ごとに適切なアドバイスを行う事の必要性などを学んでもらう機会を設定する事が出来た。

○他施設（Peace House 病院）での研修体制を構築した

当院（院内病棟型）での環境のみならず、多施設（独立型ホスピス）での勤務経験を持ってもらうことによって、それぞれの環境下での適切な対応を学ぶ機会を設定する事が出来た。

○研修の周知、広報

貴財団による研修の案内を、講演を行う度に実施するように心がけた。

II. まとめ

今年度、清水医師の研修を行うことによって、清水医師自身の成長が得られたとともに、当科としての研修体制にも大きな成果を得ることができた。これらの成果を今後の研修にも活かし、より良い研修施設として成長していきたい。

最後になりましたが、貴財団による助成にこころより感謝いたしております。ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。